左：平良次子さん

私の方には子どもたちの死体があり、あんなに騒いでいた子どもたちが油を吸って息を引き取ったんでしょう。

私はその時、どうすれば生きれるのか考えました。醤油樽を捨てて、50 メートル沖の方で人が騒いる方に泳いでいきました。何十人かが、浮かぶ２メートル位のいかだを奪い合ってました。乗ったら引き下ろすで、乗れない人は、流されて死ぬわけです。私も後ろから流れてくる男の人が私の両足をずるずるっと引っ張んたんです。来年には会えるからねといった母の言葉を思い出しながら。いかだの下に潜って、向こう側に出て、手をついたら押さえ、水の中に突っ込んで、苦しくなるとフーと上げて隠れ、自分の身を隠し、隙を見て、いかだの真ん中に滑り込みました。

次：記録によると台風が近づいていたとありますが、どうでしたか。

啓：台風 19 号発生で、遭難の翌日夜が明けました。いかだは落ち着き、力いっぱい引きずっていた男の人達はどこへ流されたか行ったか分からないです。10 名残り、おばさんとかおばあさんとかお姉ちゃん、女の子が７歳、私が９歳で、１～２歳ぐらいの男の子が一人、お母さんに抱かれていました。

次：漂流が始まりました最初 10 人いましたが、どういう様子でしたか？

啓：初めは誰も物を言わない。男の子はお母さんに抱かれていて、女の子はお母さんにくっついて、おばさん達がいました。睡魔に襲われて、流れたらおしまい。夕方になると、あっちこっちに漂流している人が見みえて、サメがあばれて、引きずっていく姿を見てとても怖かったです。

２日目になると、人は 10 人から８人になっていて、私の目の前におばあちゃんがいて、目が開いているから、生きていると私は思っていました。落ちるおばあちゃんを担いでは乗せを繰り返していると、後ろにいるおばさん達が「おばーや、まーちゃんどぉー（おばあちゃん死んでいるよ）」というんです。おばあちゃんを放し、ごめんねと何度も言って、私が悪いんじゃありませんよと唱えました。ぷくーっと沈んで、遠くに流れていく姿を見送りました。今でも心に残っているんです。

３日、４日目になってもう、８人から７人になっていました。

男の子もお母ちゃんのおっぱいをずーっと吸ってるけど、乳首が傷ついて痛いようでしたが、この子もおっぱいを飲めないって息を引き取って死んでいました。死体を抱いて泣いているお母さんの姿があり、男の子が脇から流されていなくなっていました。

そうしているうちに島に近づいている音だと気が付き、目の前に島が現れ、いかだが島にぶつかり止まりました。私も這い出そうとしたら、女の子を母親が黙って私の背中に乗っけるので、この子をおんぶして進みました。島は人も、家もない無人島でした。大人も手伝って、土を一所懸命掘っているうちに、黒い土が出てきたんです。泥の土を何回か掘り起こすと水が染み出て、透明になり首を突っ込んで、飲みました。「生きた、助かった」と。水が湧いて、３人と私と飲んで、母親が子どもに水を飲ませようと思いましたが、この子はもう息を引き取っていてお母さんが泣いていました。

私たちはどうするか考えていると、島の向こうに船が見え、岩の上にのぼって、みんなの声をあわせました。何回目かで、「いちにのさん、おーい！」というと、船頭さんが櫂を止めて、後ろを振り向いたんです。船が方向を変え向かってきました。その時の喜びは何とも言えませんでしたね。

おじいちゃんが、「お嬢ちゃん、あんた頑張ったね、偉かったね。」とほめてくださって。頂いた柔らかで白いご飯と柔らかい黒砂糖が入った飯ごうが、嬉しくてなめまわして全部食べました。

それから私たちは、枝手久島の対岸にある村の診療所で救護され、手当てを受けました。

奄美の方々の対応ですが、人が流れつくときのこと、これはナマコや木材も同じことをお年寄りはご存じだったみたいです。縦に流れついている遺体は、まだ息をしているかもしれないと、１人１人の遺体を確かめたそうです。また、105 体の死体が奄美大島に流れてきたようです。処理は正気では出来ない、だから酒をあおるように飲みながら、死体の埋葬をしたことを、戦後奄美の方からお話を聞きました。奄美の方には本当に恩を感じます。

私はつしの診療所に一泊して、翌日、起きてたら、軍艦がまたやってきて、遭難した人を調べて、船に乗せられ、奄美大島の古仁屋にみんな集められたんです。対馬丸のことを言ってはいけないという、かん口令が敷かれていて、あちこちの収容されている生存者が集められました。

対馬丸が沈没したことは言っちゃいけないと言われながら…。

そこに収容中に皆さん、傷だらけでおりました。ゆで卵とか売っているおばあさんがいて、皆、買って食べていました。私はお金がないから、お使いをさせられるけど、分けてくれる人はいない。市場で出会ったおばさんが私が住んでいた安波の隣の安田の出身で、その人の家についていきました。私にとっても同情して、家は魚屋さんだし、食堂もしているからと、その時についていったらボロボロの上着は捨てて、モンペは、これお母さんが自分で作ったんでしょうと、大事に持ちなさいと言われました。

このおばさんが、おいしいのいっぱい出してくれて、嬉しくって、そのうちに紳士のような人（津嘉山さん）に、私を安波の子らしいと紹介したんですね。名前の屋号と旧姓を伝えたら、津嘉山さんが父のことを知っていて、金持ちみたいで、引き取られたら、靴やら帽子やワンピースやらを頂きました。その時に、「学校に行かんか？」と聞いてきましたが、津嘉山さん家族の一員となって、そこの炊事の手伝いをする、水汲みをする、手伝いをしてかわいがられていました。

津嘉山さんが昭和 20 年 2 月、うちの母に電報を送って、啓子はここにいるよとなり、電報を受け取ったうちの母は、半狂乱になったようですけど、私が大島で生きてると聞いて、泣いたそうです。

次：昭和 20 年 2 月まだ米軍は上陸してきていないですよね。

啓：空襲はありました。

次：その後でまた、沖縄戦に遭遇してもいますね。小さい時の自然の中での体験で生かされたというのと、非常に運がよかったというか、いろんな出会いがありますよね。

啓：母に迎えに来てもらえて嬉しかったですが、沖縄に帰ってみると、いとこ（時子）のお母さんに会うのが私はとっても怖かったです。「啓子あんたは生きて帰ってきたね。うちの時子は太平洋においてきたの？」と言われました。今も私は、心の中に痛みとして残ってるんです。時子を私が殺したんだと…。私は被害者だと思ったら、加害者だったんだという風に。

戦争というものは人々の心をこのように傷つけているということを、私たちは、考えなければならない。良いことは一つもないんです。だから私は時子のお母さんの言葉がね…、戦争というものはね、みんな人間が人間を殺す事は恐ろしい。

「時子は太平洋においてきたの？」というのは、本当それを言われた私は心で泣くと、海を見てはね、当時のことを思いだしました。子どもたちは何もできませんし、仕方がないと思っても許せない。だから生きている私は、みんなの代表で生きているわけだから、こういうことが二度と起こらないように、戦争をしないように、少しでもそういう暴挙があれば、阻止しなければならない。そのために私は語り継いでいくという気持ちになってしまうんです。

私がこんな長いこと生きているのも、生かされているのも、この子どもたちが「語れ、語れ」と言うから私は語らなければならない。生きなければならないという気持ちになってしまうんですね。同じ人間ですからね。平和に生きたいと思うのは誰も同じこと。そういうことを思うと、戦争というものは、人の心の中で生まれるものだから、私たちは肝に命じて日々平和のために行動しなくてはならないと、つくづく思いました。

シンポジウム等を通して県外へ発信

沖縄のことを知ってもらうと同時に、全国の皆さま
との戦争や平和を考える時間を設けました。

RBCiラジオ　特別プログラム企画

まるごと１日伝えよう 沖縄の平和のこころスペシャル

2022年11月29日（火）　RBCiラジオ　平日の各ワイド番組で
朝の番組『アップ！！』から夕方の番組『わんDAY』までの放送内で募集する
リスナーからのメッセージ・リクエスト曲・ラジオカーリポート・ゲスト出演コーナーなど
「平和」のテーマに沿った内容でお届けしました。

リクエスト曲も平和ソング

各番組で放送された平和ソングをご紹介。
あなたが好きな曲はありましたか。

♪ 時代遅れのRock'n'Roll Band／
　桑田佳祐 feat. 佐野元春, 世良公則, Char, 野口五郎
♪ 花はどこへ行った／ピーター・ポール＆マリー
♪ 瑠璃色の地球／松田聖子
♪ ETERNAL WIND～ほほえみは光る風の中～／森口博子
♪ 愛する花／MONGOL800
♪ この素晴らしき世界／ルイ・アームストロング
♪ We Are The World:／U.S.A For Africa
♪ 弥勒世果報～Undercooled - ／うないぐみ＋坂本龍一
♪ All You Need Is Love (愛こそはすべて)／The Beatles
♪ 世界に一つだけの花／SMAP
♪ タガタメ／Mr.Children
♪ ウージの唄／かりゆし５８
♪ 空よ海よ花よ太陽よ／神谷千尋
♪ Ｈｅｙ和／ゆず
♪ NEVER END／安室奈美恵
♪ ONE LOVE／エイジアエンジニア
♪ NO～命の跡に咲いた花～／ストレイテナー
♪ コバルトブルー／THE BACK HORN
♪ One Big Family ～ワッターシンカ～／
　U-DOU&PLATY×Home Grown
♪ 平和の琉歌／サザンオールスターズ
♪ 片手に三線を／DIAMANTES
♪ 琉球愛歌／MONGOL800
♪ 未来へ／Kiroro
♪ からたち野道／THE BOOM
♪ いのちのリレー／さんご

リスナーさんから届いた平和を想うメッセージ

カチャーシーで平和を感じるって、沖縄ならではで素敵。

**申し訳ないけれど慰霊の日知ったのは
いい大人になってからだった。
だから関東で声上げて伝えていければ、
僕の想いが、少しづつ広まってほしいと感じています。**

**言葉は通じずとも、コミュニケーションで繋がる世界。
飲みニケーションなら、うちなんちゅ得意そうよね。**

**平和。
こうやって毎日ラジオとか対人と笑える事かな？
いつもありがとう。**

**この時期に「平和」を取り上げるのって
珍しいですね。沖縄戦が4～6月ですから、
冬にも考える日があっても
いいかもしれません。**

**戦争や争いの対極にあるのが平和ではなく、ひとりひとり
が尊重されて、自分らしく生きていけること、
その世界をつくっていくことが平和だと思います。
私には何ができるだろうと、考え続けたいです。**

**浦添と摩文仁の犠牲者の内訳の違いは
知らなかったので、勉強になった。
来沖してるタイミングで、
こういう学びがあったのは良かったな。**

**戦争マラリアの話、波照間島に行った時
初めて知って涙が止まりませんでした…。
先日、西表島に行った際、
忘勿石を訪れ、手を合わせました。**

Q：「○○は平和」平和についての想うこと

首里のすけ

「出会いは平和」

仲村美涼

「笑うことは平和」

狩俣倫太郎／くだかまり

**「知ろうとすること慮ること」
「愛」**

棚原里帆

「思いやりの心」

『アップ！！』	『MUSIC SHOWER PLUS ＋』	『具志堅ストアー』	『民謡で今日拝なびら』	『わんDAY』
仲村美涼 首里のすけ	狩俣倫太郎 くだかまり	具志堅将司 棚原里帆	前川守賢 よなは徹	ベンビー 中村一枝

リスナープレゼントは「平輪ちんすこう」

メッセージを採用された人へ送る
リスナープレゼントに抽選で
社会福祉法人　若竹福祉会の
平輪ちんすこうをプレゼント。
「世界が平和でありますように」の
想いが込められています。

身近な佳き友人が増えれば、
世の中よくなるんだろうな。
隣人に限らず、国を越えた友人を作りたい。
なかなか難しいけど。

原爆の話は小学校の頃から平和学習でいろいろ見てきたし、
アニメや平和記念館もみてきた。
見るだけでもつらい。
でも、これを未来の世代に受け継がないといけない。

わたしの祖母もよく
「あの頃に比べたら…」と言っていました。
会ったときには
必ず「ひもじくない？」と聞いてきました。
自分が苦しかったことを他の人にも感じさせたくない、
という思いが強かったように思います。
辛さを知っているからこその優しさですよね。

戦争時で芋は食べたから
芋は見たくないと言う方もいますが、
祖母は芋が大好きでした。

芋蒸したり、芋の天ぷら～したり
カンダバーも綺麗に洗って
ジューシーにしたり。

思い出の味も
食べ物も粗末にせず
美味しいと心も体も喜ぶ食事。
健やかな平和ですね。

コーナーやラジオカーリポートの出演は平和継承に携わる企業・団体のみなさま

ゲストコーナーやラジオカーリポートのコーナー内では
沖縄県やちゅらうちなー草の根平和貢献賞や沖縄平和賞の受賞団体・
企業をはじめ平和貢献活動に日々尽力するみなさまにご出演いただきました。

出演者のみなさま（順不同）

株式会社さびら 狩俣日姫
ひめゆり平和祈念資料館 普天間朝佳（館長）
オヤジバンド GENNO65 友利尚生
対馬丸記念館 堀切香鈴（学芸員）
沖縄県立八重山商工高等学校 功刀弘之（定時制教頭）
うらおそい歴史ガイド友の会 玉那覇清美（事務局長）
株式会社丸浩重機工業 比嘉俊浩（代表取締役社長）
南風原文化センター 平良次子（館長）
NPO法人石川・宮森630会 久高政治（会長）
沖縄県SDGs推進室 知念久美子（主幹）
沖縄県子ども生活福祉部女性力・平和推進課
島津典子（課長）／新垣耕（班長）
佐次田準（主査）／比嘉奎介（主事）

ありがとうございました。

メール・ハガキ・Twitterを合わせて962通のコメントが届きました。

パーソナリティのみなさんにも聞きました

具志堅将司

「人を笑顔に」

前川守賢／よなは徹

「笑顔で接して唄さんしん」
「音楽に国境は無い。
世界中で音楽に
あふれる世の中になりますように」

ベンビー

「歌ったり笑ったり
ささいなことで悩んだり」

中村一枝

「家族みんなで囲む
温かい食卓」

「本土復帰 50 年に立つ沖縄、沖縄からの平和発信とは」

届けた、うむい（思い）

沖縄の過去の記憶「戦争」と未来創造の「平和」を沖縄の立場から発信し、県内外の参加者と共に平和発信について学びあい、創造する場となりました。

沖縄の地域住民に愛され、折に触れ、様々なメディアを通して沖縄について語る姿からは、沖縄（うちなー）愛を感じる宮本亞門さんが語る平和への思い、世界の政界情勢に対することをお話し頂きました。

基調講演後、ひめゆり平和祈念資料館館長の普天間朝佳さん、平和教育ファシリテーター狩俣日姫さん、沖縄県知事の玉城デニーと共にパネルディスカッションを行い、次世代への平和継承の展開について語り合いました。

イベント概要

日　程：1 月 11 日（水）　**時間**：18：00 ～ 20：30
場　所：渋谷区文化総合センター　伝承ホール
形　式：パネルディスカッション
参加者：695 人（会場参加者：164 人　オンライン参加者：531 人）

司会の宮城さつきさん

イベント内容

- オープニングアクト　合唱「じんじん」「島唄」／こどもの城合唱団
- 基調講演「戦争の足音が聞こえる今だから知ってほしいこと」
  講演者：宮本 亞門（演出家）
- パネルディスカッション
  「平和を希求する沖縄のこころ ～次世代への平和継承をどう展開するのか～」
  玉城 デニー（沖縄県知事）
  普天間 朝佳（ひめゆり平和祈念資料館館長）
  狩俣 日姫（(株)さびら 平和教育ファシリテーター）

オープニングアクトを務めた「こどもの城合唱団」

「こどもの城児童合唱団」は、1985 年の 11 月の「こどもの城」のオープンに先駆けて作られた児童合唱団。3 ～ 79 歳の世代や性別、国籍を超えた、多様性ある 250 名が在籍する合唱団。

実施結果
イベント参加者 **695人**　渋谷伝承ホール(対面参加):164人　オンライン参加:531人
数字 **87%**　アンケート結果　本事業を通して平和への理解が高まった（とても高まった・高まった）

宮本 亞門（みやもと あもん）さん　玉城 デニー（たまき）知事　普天間 朝佳（ふてんま ちょうけい）さん　狩俣 日姫（かりまた につき）さん

パネルディスカッション（要約）
「平和を希求する沖縄のこころ ～次世代への平和継承をどう展開するか～」

紙面の関係上、登壇者３名のお話された内容の要約とさせて頂きます。

玉城デニー　沖縄県知事

平和の礎は沖縄の歴史と風土の中で培われた「平和のこころ」を広く内外に伝え、世界の恒久平和を願い沖縄戦などで亡くなられた全ての方々のお名前を刻む記念碑として建設され、令和４年６月 23 日時点の刻銘者の総数は合わせて 24 万 1,686 名となっている。

沖縄県平和祈念資料館は沖縄戦の歴史的体験の継承と平和創造のための学習や研究及び教育の拠点として 2000 年に新築・開館。併せて、沖縄平和賞を 2001 年に創設し、沖縄と地理的・歴史的に関わりの深いアジア太平洋地域の平和の構築や維持に貢献した個人または、団体を２年に１度顕彰している。

私が県知事に就任後、創設した「ちゅらうちなー草の根平和貢献賞」は、沖縄県内の個人や団体、学校などを表彰させていただいて、平和で豊かな地域社会の実現を目指すとともに、平和に関する県民意識の普及や高揚に寄与している。

沖縄県は、沖縄を二度と戦場にさせない、戦争を起こさせないことを発信していくために、次世代に対し歴史のあるべき姿、これからあるべき姿を追い求め続けるために国際平和の実現を提案している。平和を希求する「沖縄のこころ」を県内外に発信し、恒久平和の実現に向けて、地道ではあるけれど、力強く一歩一歩、平和に向けた取り組みを繋げていきたいと願い、取り組みを行っている。

狩俣日姫　（株）さびら 平和教育ファシリテーター

平和教育にまず携わるきっかけというところで中学校とか高校の時に平和教育に関心が持てなかった経験を持つ。その後沖縄のことを自分で調べるようになり、自分が知識がないために受け取れなかったことを実感する。これは、体験者の方の伝え方が悪いとか、下の世代が戦争のことを知らなすぎるというよりも、その間にそれを教えてくれる人がいたらよいのではないかと思い、活動を始めた。

ディスカッションやフィールドワークだったり、こういうことを生徒に考えてもらいたいと願い、様々なプログラムを作っている。

今、意識していることが、過去の戦争を知って何を教訓にするのか、何のために戦争を学ばないといけないのかという問いである。そこから平和な未来を一緒に考えて一緒に作っていくというところで、私たちもやっぱり未来のことは分からない。これから戦争が起こるか起こらないかわからない、だから一緒にどういう社会を作りたいかをみんなで考えましょうと願い、活動している。

普天間朝佳　ひめゆり平和祈念資料館館長

ひめゆり平和祈念資料館は、展示を通して戦争の悲惨さや命の尊さを伝えるミュージアムである。元ひめゆり学徒達は資料館の開館後、戦争体験を伝える仕事だけでなく、資料館のあらゆる仕事に携わって資料館の運営を担ってきた。戦争体験を未来に渡って伝え続けていくためにはどうすべきか、模索する中、仕事を引き継ぐ次世代の職員の育成を始めた。

活動の継承は体験者から非体験者への一方的な物ではなくて、企画展や本などを一緒に作るなか、伝え方を共に模索し、歩む過程で、沖縄戦とは、ひめゆり学徒隊の体験とは何だったのかという認識を共に深め合ってきた。

戦後 77 年が経ち、来館される若い世代は、祖父母も戦争体験がない世代になった。戦争から遠くなった世代にも伝わる展示を目指し、一昨年展示をリニューアルを行った。その際、３つの試みにチャレンジをしている。

①イラストや映像などを増やし、展示テキストも分かりやすく書き直しを行った。

②ひめゆり学徒たちの笑顔の生き生きとした写真を活用し、当時の生徒たちが自分たちと変わらない人たちであり、自分ごととして考えてもらえるきっかけにする。

③ひめゆりの戦後という新しいテーマの展示を追加した。
ひめゆりの人たちが戦後どのような思いでいたのか、なぜ戦後長い間戦争体験を語らなかったのか、そしてなぜ平和祈念資料館を作ったのかということを伝えることも大切にしている。

参加者の声

- 宮本様の「戦わないことを考える」「後のことを考える」が印象に残りました。後のことを考えなくても良いようにしたいと思いました。
- 東京に比べて平和教育の資源が本当に豊かだと思いました。
- コロナ禍での運営は大変なことと思いますが、今の世の中では良いタイミングでした。沖縄での平和活動の現状、今も残る痛みがよく理解できました。
- 官民が一緒に平和について考える貴重な機会だったと思います。最後の普天間館長の「沖縄の平和は市民が作り上げてきた」というお言葉が大変印象的でした。この事業の取組みが継続し、沖縄県から他府県に平和の取組みが広がっていくとよいなと思います。
- 宮本さんの講演や知事、ひめゆり平和祈念資料館館長、ファシリテーターの方のお話は期待以上でとっても良かったです。宮本さんのような著名な方が堂々と平和への決意を述べられたことに尊敬し、励まされました。パネルディスカッションのお話から沖縄の方たちがどんな思いで過ごしてこられたか伝わってくるものがありました。状況は厳しいですが、諦めないでできることをしていこうと思いました。ありがとうございました。

関連情報

沖縄平和賞について
沖縄平和賞の歴代受賞者、令和４年 10 月に行われた第 11 回授賞式の様子や関連動画を公式ホームページでご覧になれます。

沖縄平和賞
ホームページ

ひめゆり平和祈念資料館
第 11 回沖縄平和賞を受賞し、パネルディスカッションにも登壇いただいたひめゆり平和祈念資料館について詳しく知りたい方は公式ホームページをご覧ください。

ひめゆり
平和祈念資料館
ホームページ

アーカイブ配信について
本シンポジウムの模様をアーカイブ配信にてご覧になれます。詳しくは 66 ページをご確認ください。

宮本亞門さん　講演録

宮本さん講演の様子

戦争のはじまり

いつの間にか戦争になっていく、沖縄戦、特に沖縄の人にとって驚いたのは、沖縄戦の前、皇民化教育を受けて、「我々は絶対に何の問題も無い。絶対に勝つぞ！」と信じていました。その中で、真珠湾でも大勝利、日本の国旗を振りかざして「やったぞ！俺たちは！」といった自信があった後、1944 年 10 月 10 日、朝 6 時 40 分、突然アメリカの空軍・爆撃機が沖縄を襲いました。那覇市は軍事施設に加え、民間の住居地域にも攻撃 9 時間にも渡り、大きな被害を受けました。1,400 機近い米軍機が縦横無尽に爆弾や焼夷弾を打ち込み、軍事施設に加え、家、商店、学校、 5 万人が焼き出され、那覇市は一面が焼け野原になりました。この無差別爆撃は国際法に違反であると抗議をしたんですよね。その前の、ヨーロッパで起こっていた反省を踏まえて、戦争にもルールがあったんですね。「戦争中であっても、一般市民を攻撃に巻き込んではいけない」しかし、この国際法には厄介な続きがあり、日本政府が抗議しても「戦争中であっても、一般市民を攻撃に巻き込んではいけない。但し、空襲によって破壊したことにより、明らかな軍事的利益をもたらす場合は、攻撃してもよい」です。アメリカは全然攻撃を辞めるはずがありません。今の、ロシア・ウクライナ戦争を「民間人は殺してはいけない」と言いながら、こうなるのが戦争だという事だと、忘れないようにしたいと思います。

空襲なんですけど、これは沖縄の後、ちょうど 1 ヶ月後位に東京でも 11 万人の死者が出た、東京大空襲です。東京の人たちも「絶対勝つ、上手くいく！」軍から流される報道は全部そっちの方だった。日本中に広がり日本全国で 38 万人が空襲で死んでいます。沖縄からスタートして、突然次々と容赦ないアメリカの攻撃です。誰も予想しない、人々が信じたこと、皇民化教育もあったんでしょうが、突然起きたことが戦争だということです。

祖父と戦争

先日、対馬丸記念館へ行きました。僕のおじいちゃんは戦艦大和を作った人でした。一切それを親父に言っていなかった。うちの親父は、一昨年前に死んだんですが、その親父が言うには、大倉工業・鉄鋼業の中の重役だった祖父が突然一切喋らなくなった。家の中に居ても食事だけをして、すぐ寝るようになった。僕はお父さんに嫌われたんだと思っていた。ところが NHK の放送で祖父が戦艦大和の担当だと知りました。そんなことで祖父と親父との間には亀裂があったんですけれど

も、初めてそのことを知り、90 歳過ぎた親父は泣いていました。あの時祖父が「誰にも言うなよ。言ったら殺されるから。この戦争は負けると思うよ」と言ったそうです。学校なんかで言ったらおしまいだからということだけは、と覚えていて、それで祖父は戦艦大和を作ったという思いがありました。

僕にはいろんな思いがあり、生存者の平良啓子さんや娘さんも来ていただいて、お話をして下さり、僕も横で聞かせて頂きました。もうあまりにも壮絶で、言葉をなくすというのは本当で、こんな事があるのか、僕はもう舞台やドラマは激しく作ってきましたが、そんなもの全部超えて現実の本当の怖さみたいなものを感じました（平良さんのお話は P24 ～ご参照）。

平良さんのような方がまだご存命で、直接話が聞けるということは素晴らしいことです。沖縄戦経験者のほとんどが亡くなり、高齢者の方です。次に受け継いで頑張っている若い人達が受け継いで、語り継いでいって欲しいとしみじみと思います。

沖縄の暮しと戦争

沖縄南部の玉城（たまぐすく）という所に住んだことがあり、周りには御嶽や祈る所が多かったのですが、家の前に見えたのは、戦時中皆さんが飛び降りた崖がありました。南部に居た頃は、先人達の思いを忘れちゃいけないと、自分が出来ることは何なのか、自然に祈り、感謝する日々を送っていました。誰かが来たら、「気持ちが暗くなるかもしれないけど、まずは行ってみようよ」とひめゆり平和祈念資料館を訪問していましたが、今回見事にリニューアルされていました。皇民化教育があったとしても、ひめゆりの学徒の皆さんは、「わ～！」と笑ってニコニコしながら運動や授業、ピクニック等を過ごしていた彼女たちは、その先誰も知らない、朗らかな笑顔というものを見ることが出来ました。今、我々がこうならないように、見るべきリニューアルされたと思いましたので、皆さんも行ってください。

僕は、渡嘉敷島、伊江島の方にも行き、出来る限りお話を聞きたいと思い、聞いてみました。特に伊江島は、兵隊がいるかもしれない理由で、小さな村も人影が消えるまでアメリカ軍は徹底的に、爆弾を落とし続けていたと言われています。親父も僕も、本部町備瀬に一緒に行った時に、庭で手入れをしていた優しそうなおば様がいらっしゃり、僕は北部の激しい戦争があったことを知らずに、「ここら辺は大丈夫だったんですか？」と聞くと、実はと、座って１時間位お話を聞きました。後半、女性は感極まって涙を、言葉を出なくなることもありました。「備瀬の前の浜辺には全部死体で、伊江島から流れてきた人達です。夜中に行ったら、キラキラ光っているのよ。蛍かとおもったら、死体に集まってきた虫でした。空の星ときらめきが全部一緒になり、恐ろしくて訳が分からなかった。」そうです。他の方にもお話になったんですかと聞くと、いいや、辛すぎて、娘にも孫にも絶対に言わないと。よくひめゆりの方にも、皆さん喋ったらと言うんですけど、本人が全部蓋をしないと生きていけないほど辛いものを、言う残酷さもあるのです。彼女の話に、親父はお礼を言いながら、ずっと手を握ったまま、佇んだのを覚えています。

戦争って、命の尊さは忘れられます。相手の兵隊や住民は関係なく亡くなります。戦争は、人を人と思っては出来ないことです。沖縄の大好きな言葉「命どぅ宝」があります。沖縄戦の、渡嘉敷島の集団自決の時も「命どぅ宝」という言葉で自決を止めたという証言も実際にあります。「生きられる間は、生きるべきだ。大切なのは命。一度失うと、戻らない」今まで、「アメリカにやられる、レイプされる」死のうとするんだけど、駄目だと止めるこの気持ちです。

演出家の役割について

僕が最も尊敬するフランス人の演出家と話したことがあります。ニュースでは、何人死んだと、毎日流れています。特に戦争では、数になります。コロナの時も数になります。それがニュースの仕事かもしれないですが、私たち演出家がやることは、「命は数じゃない」ということ、全員のことを知ることはできない、でも一人ひとり、親があって血が通っていて、愛したり恋したり、悩んだり喜んだり、本当に五感・六感が溢れる誰でも生き

た人間だということです。

お芝居を作っていて、中には殺人犯も出てきます。ある人は「何で、お芝居で殺人犯をやるの？」と、殺人犯であっても、何なんだろうと全部紐解きます。人間、皆矛盾に満ちて状況に応じてカーッ！となり、状況に応じて人の言う事だけを信じて、色んなことが起きてしまう、それが人間だよということを考えていきたいと思います。

米国 9.11 同時多発テロの経験

僕は戦争に近い体験をしたことがあります。僕の初のアメリカ公演の開幕１週間前、９.11 同時多発テロ事件の時にニューヨークにいました。今日から劇場に行くぞ！と思ったら、電話が掛かってきて「亜門さん！テレビ見てください！」と言われテレビを付けると、一機目がダーン、２機目が丁度ズドーン！と、全然分からない状態で、僕はすぐに支度し劇場に行こうと表に出ました。綺麗な空で花屋はいつも通り花を売っている、いつものニューヨークです。地下鉄では電車が走り、お互いの顔を見ずに、悩んだりしている感じ。やっぱり何か起こっているんだと思って、グランドセントラルステーションに行くと「マンハッタン島を出る電車が最後になります」と案内があり、普段パニックにならないアメリカ人がワー！となっていました。電車に乗らないと劇場に行けないので、電車に乗っていたら、ラジオで「ペンタゴンに落ちた！」アメリカが次々と飛行機という爆弾により潰されるのではないか恐怖感を感じました。ビルから煙や炎の中から逃げる場がないから飛び降りていく姿は衝撃でした。僕はダウンタウンの方にいって何かできないかと思い、マンハッタン島に入る電車が２日後に動きだし、ボランティア活動をしました。皆一生懸命笑顔で日常を変えない、負けない思いで活動をしていました。

沖縄の「うむい＝想う」にみる平和のあり方

僕の大好きな言葉に「うむい＝想う」があります。沖縄ではユタであるとか神人（かみんちゅ）というお祈りする人たちが言う「うむい」があります。例えば、神・自然・人を想う、全てに感謝して良き将来を想う。悲観をせず、もっと良くなるという想い、「うむい」の言葉、僕はこの言葉に対し、感謝しています。静かに海を見て、絶対に良くなるぞ！人の気持ち、こういう痛さも、辛さもある、その気持ちもわかると。

ジョンレノンのイマジンがあります。「イマジン」の歌は先程の 9.11 同時多発テロの後に、アメリカで一切の禁止になりました。人々の闘争心を挫かせてしまうと思ったからでしょう。この歌詞は「想像してごらん、国なんて無いんだとか、殺す理由も死ぬ理由も無くて、全てが一緒なんだよ。平和に生きていいんだよ。僕一人じゃないんだよ」です。

全否定をお互いにしたら、互いに曲げなくなるだけです。僕は沖縄の今までの外交の歴史、守礼門も含めて、礼節を持って色々な国を繋げていく、人々の生き方がよいと思えます。皆が一人でも人を殺さずに進んでいける様にする考え方は、必要だと思います。自民党で衆議院議長もお務めになった河野さんも「防衛費増額より、もっとやるべきことが沢山あるはずだと、少なくとも国会で議論するとか、国会を解散し選挙で国民の意思を問う位、重要なんじゃないか」と言っています。真剣にテーブルに載せて話し合おうと本当に今の政権はしたのか？ということですね。外交的努力を本当にしていないと思う」この意見に僕は賛成です。戦うことは目的ではく、政治家任せにしない方がよいと思います。

文化の人、エンターテインメントの人たちも、どんな皆さんの方達でも、誰かが「そうだね、あの政治家が悪いんだよ。あいつがいるからこうなったんだ」黙ってるより、傍観しているより、意見を言ってもいいと思いますが、何とかこれを繋ぐ方法はないかと考えていきたいと思います。

日本は周期的に天災が起きています。壮絶な天災が、我々はそういうところで生きているということです。見たくない、聞きたくないと言ってももう歴史が明確です。止められない自然災害、天災はもう運命として受け入れるしかないと思っています。ところが、戦争は天災ではなく、人災です。人災は、止めることが出来ると死ぬまで信じていきたいですし、そのために動いて行きたいです。

沖縄・長野大学生
平和交流プログラム（共催：長野県）

沖縄オンライン会場

長野オンライン会場

届けた、うむい（思い）

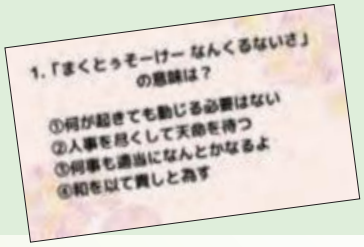
長野県内の戦跡調査や、戦争経験者への聞き取りを行っている長野大学の山浦ゼミの学生８人と沖縄県内大学の学生８人で各県の取り組みについて共有しました。長野県側からはゼミで取り組んでいる戦争継承に向けた取り組みと思い、沖縄県側からは県内で行われている平和学習や、慰霊の日に対する沖縄県民の思いを伝えました。最後には戦争経験者の数が減ってきている中、最後の世代として、同世代・次世代にどのようにアプローチし、戦争の経験を継承していくかグループに分かれて対話しました。

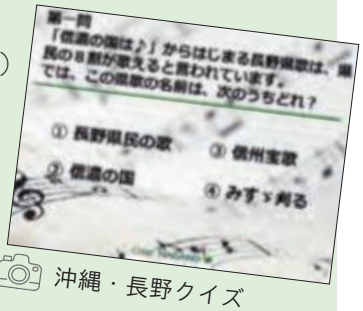
イベント概要

日　程：１月 28 日（土）　**時間**：10：00 ～ 12：00　**場所**：沖縄 ZOOM 会場（JICA 沖縄）
形　式：オンライン形式によるプレゼン＆ワークショップによる対話
参加者：24 人（大学生、関係者、メディア含む）
長野大学学生および教員、名桜大学、沖縄キリスト教学院大学、
長野県庁職員、沖縄県庁職員、メディア記者

イベント内容

○沖縄平和啓発プロモーション事業説明　島津典子（女性力・平和推進課課長）
○参加者自己紹介
○沖縄県・長野県クイズ
○実践共有
　・長野大学山浦ゼミ学生実践共有
　・沖縄県平和学習の共有
○ゆんたくタイム





沖縄・長野クイズ

企画した大学生・若者の声（沖縄）

企画の段階から県内大学生有志が協力して下さり、フィールドワークや話し合いを通して純度 100％の若者目線でプログラムを形作っていきました。

「平和」と言うと、特に若者世代に難い印象を与えてしまうので、最も意識したのが「ゆるりと、気を張らずに平和について考える場」にしたいということでした。そのため、沖縄の言葉のお話会、すなわち沖縄語で、「ゆんたく会」という名前で開催しました。

長野大学の実践共有では新たに学ぶことが多くありました。遠く離れた両県の若者同士、互いの戦争の経験を語り継ぎたいという思いをともに共有でき、とても有意義な時間となりました。

今後もこのつながりを続けていき、一緒に学び合っていきたいと強く思いました。

（ファシリテーター 神山怜奈）

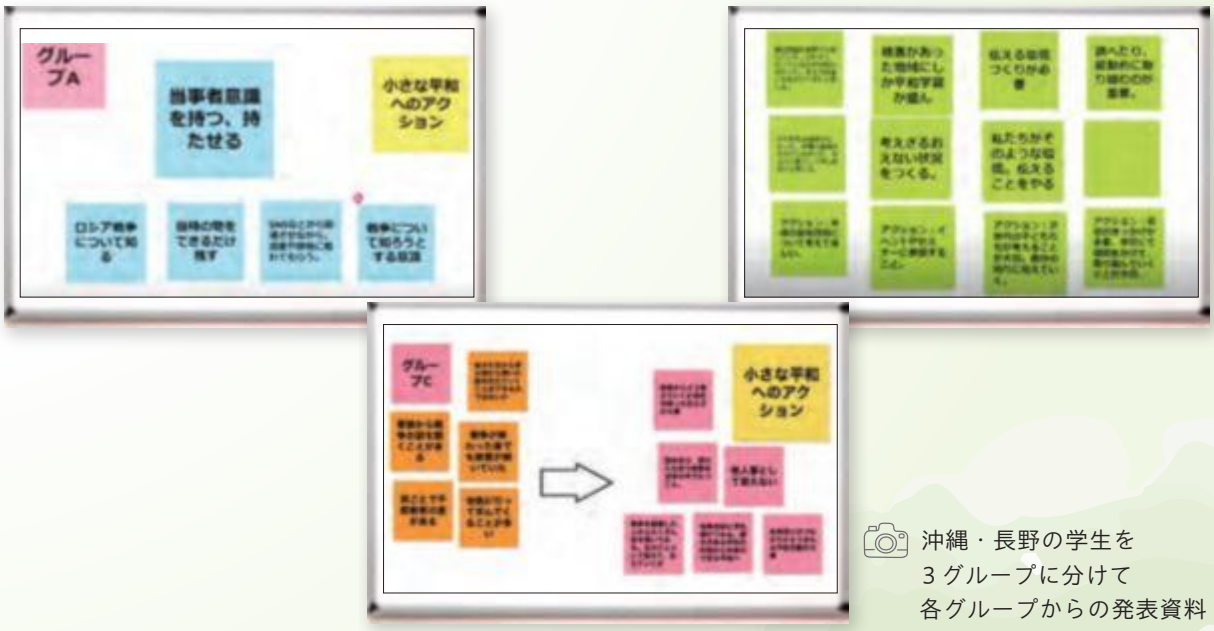
長野・沖縄県の集合写真

参加大学生の声

・『戦争はだめだ』と分かっているのに戦争は今も続き、今後も起こる可能性がある。その戦争を起こすのは私たちの世代だ。当事者意識をもって体験者から聞き、遺跡を残し、下の世代に伝えていかないといけない。
・慰霊の日のように多くの人が祈るわけではない。戦争遺跡を保存し、長野でも平和への意識が根付くようにしなければいけない。
・沖縄の学生さんとの意見共有（グループワーク）を通して、自身になかった新たな平和への知恵を獲得することができ、非常によかったです。
・長野県のゼミの方達の活動で、知らないことばかりでした。印象的だったのは松脂採取跡地松の写真を見て、この松の性質？自体が傷つけられると残ったままになってしまうというのが、戦争は環境に影響を与えるということにつながるし、戦争で追った傷は人も物も消えないからこそ本当に起こしてはならないものだと思いました。私たちがこのような機会で学ぶことは大切であり、他の県の方達と一緒に共有し合い、戦争が引き起こす大きな犠牲とともに戦争の恐ろしさを知ることができ、もっと沖縄の基地問題などにも多くの人に興味を持ってもらえる機会にもつながるなと思いました。

長野・沖縄の学生を３グループに分けて、
平和のためのアクションプランを話し合い、全体共有を行いました。

テーマ「平和継承に向けてのアプローチ」



沖縄・長野の学生を
３グループに分けて
各グループからの発表資料